

イーハトーボ農学校の春

宮沢賢治

青空文庫

太陽たいようマジックのうたはもう青ぞらいっぱい、ひっきりなしにごうごうごう鳴っています。

わたしたちは黄いろの 実習服じっしゅうふくを着て、くずれかかった煉瓦れんがの肥溜こえだめのところへあつまりました。

冬中ふゆちゅういつも唇くちびるが青ざめて、がたがたふるえていた阿部時夫あべときおなどが、今日はまるでいきいきした顔いろになってにかにかにかに笑わらっています。ほんとうに阿部時夫あべときおなら、冬の間からだが悪わるかったのではなくて、シャツを一枚まいしかもっていないなかつたのです。それにせいが高いので、教室きょうしつでもいちばん火に遠いこわれた戸のすきまから風のひゅうひゅう入いつて来る北東きたとうの隅すみだつたのです。

けれども今日は、こんなにそらがまつ青さおで、見ているとまるでわくわくするよう、かれくさも桑くわばやしの黄いろの脚あしもまばゆいくらいです。おまけに堆肥小屋たいひこやの裏うらの二きれの雲りっぱは立派りっぱに光ひついていますし、それにちかくの空ではひばりがまるで砂糖水さとうみずのようにふるえて、すきとおつた空気くわいいっぱいやっているのです。もう誰だれだつて胸むね中ちゆうからもくもく湧わ

いてくるうれしさに笑い出さないでいられるでしょうか。そうでなければ無理に口を横に大きくしたり、わざと額をしかめたりしてそれをごまかしているのです。

(コロナは六十三万二百

※……

※……

ああきれいだ、まるでまつ赤な花火のようだよ。(

それはリシウムの紅焰でしょう。ほんとうに光炎菩薩太陽マジックの歌はそらにも地面にもちからいつぱい、日光の小さな小さな葦や橙や赤の波といっしょに一、生けん命に鳴っています。カイロ男爵だつて早く上等の絹のフロックを着て明るいとこへ飛びだすがいいでしょう。

楊の木の中でも樺の木でも、またかれくさの地下茎でも、月光いろの甘い樹液がちらちらゆれだし、早い萱草やつめくさの芽にはもう黄金いろのちいさな澱粉の粒がつうつう浮いたり沈んだりしています。

(※……

コロナは三十七万九

A musical score for a song. The score is written on two staves. The top staff is a treble clef with a 2/4 time signature. The bottom staff is a bass clef. The melody is written on the top staff, and the accompaniment is written on the bottom staff. The lyrics are written below the top staff.

コ ロ ナ は し ち じ ゅ う ろ く ま ん に ひ く

※……………

※……………

くずれかかった煉瓦れんがの肥溜こえだめの中にはビールのように泡あわがもりあがっています。さあ順番ゆんばんに桶おけに汲み込くもう。そこらいつぱいこんなにひどく明るくて、ラジウムよりもつとはげしく、そしてやさしい光の波なみが生けん命生けん命ふるえているのに、いったいどんなものがきたなくてどんなものがわるいのでしょうか。もうどんどん泡あわがあふれ出してもいいのです。青ぞらいつぱい鳴っているあのりんとした太陽たいようマジックの歌をお聴ききなさい。

(コロナは六十七万四千

※……………

※……………

さあ、ではみんなでこいつを下台しただいの麦あわばたけまで持もって行いこう、こっちの崖がけはあんまり急きゆうですからやつぱり女学校の裏うらをまわって楊やなぎの木きのあるとこの坂さかをおりて行きましょう。大丈夫だいじょうぶ二十分ふたじゅうぶんかかりません。なるべくせいのに似にたような人と、二人ふたりで一つずつかき下ください。そうです、町の裏を通とおって行くのです。阿部君あべくんはいつしよに行くひとがない、そ

れはぼくといっしょに行こう。ああ鳴っている、鳴っている、そこらいちめん鳴っている
太陽マジックの歌をごらん下さい。

(※)……………

※……………

コロナは八十三万五百

※……………

※……………

まぶしい山の雪の反射はんしやです。わたくしがはたらきながら、また重いおもものをはこびながら、手で水をすくうことも考えることのできないときは、そこから白びかりこおりが氷のようにわたくしの咽喉のどに寄せてきて、こくつとわたくしの咽喉のどを鳴らし、すっかりなおしてしま
うのです。それにいまならぼくたちの膝ひざはまるで上等じょうとうのばねのようです。去年きょねんの秋
のようにあんなつめたい風のなかなら仕事しごともずいぶんひどかったのですけれども、いまな
らあんまり楽でただ少し肩かたの重苦おもくるしいのをこらえるだけです。それだって却かえって胸むねがあ
つくなつていい気持きもちなくらいです。

(コロナは六十三万十五

※……

※……

おおこまどり、鳴いて行く鳴いて行く、音譜おんぷのように飛とんで行きます。赤い上着うわぎでどこまで今日はかけて行くの。いいねえ、ほんとうに、

かえれ、こまどり、アカシヤづくり。

赤の上着うわぎに野やまを越こえて

(※)……

※……

コロナは三十七万二千

※……

)

その角から赤髪あかげの子供こどもがひとり、こつちをのぞいてわらっています。おい、大将たいしやう、証書しょうしょはちゃんとしまったかい。筆記帳ひっきちやうには組と名前を楷書かいしよで書いてしまったの。

さあ、春だ、うたつたり走つたり、とびあがつたりするがいい。風野かぜのまたさぶらう又三郎またさぶらうだつて、

もうガラスのマントをひらひらさせ大よろこびで髪かみをぱちやぱちややりながら野はらを飛とんであるきながら春が来た、春が来たをうたっているよ。ほんとうにもう、走つたりうた

つたり、飛びあがつたりするがいい。ぼくたちはいまいそがしいんだよ。

(コロナは八万三千十九

※……

※……

砂すなつち土がやわらかい匂においの息いきをはいています。いままでやすんでいた虫むしどもが、ぼんやり

といま眼めをさまし、しずかに息いきをするらしいのです。麦むぎはつやつや光ひかりつています。雪ゆきの下からうまくとけて出て出て青い麦むぎです。早く走はしって行いこう、かけさえしたらすぐに麦むぎは吸すい込こむのだ。

(コロナは八万三千十九)

わたくしたちが柄ひしやく杓しやくで肥こえを麦むぎにかければ、水みづはどうしてそんなにまだ力ちからも入れないうちに水すいぎん銀ぎんのように青く光あかりり、たまになつて麦むぎの上に飛びだすでしょう、また砂すな土つちがどうしてあんなにのどの乾かわいた子どもこどもの水みづを呑のむように肥こえを吸すい込こむのでしょうか。もうほんとうにそうでなければならぬから、それがただひとつのみちだからひとりです。もうほんとうなるのです。

(コロナは十万八千二百

※……

※……

こんどは帰りはわたくしたちは近みちをしてあの急な坂をのぼりましょう。あすこの坂なら杉の木が昆布かびろうどのようです。阿部君、だまってそらを見ながらあるいていて一体何を見ているの。そうそう、青ぞらのあんな高いところ、巻雲さえ浮びそうに見えるところを、三羽の鷹かなにかの鳥が、それとも鶴かスワンでしょうか、三またの槍の穂のようにはねをのぼして白く光つてとんで行きます。

(コロナは三十七万二百)

※……

※……

おや、このせきの去年のちいさな丸太の橋は、雪代水で流れたな、からだだけならすぐ跳べるんだが肥桶をどうしような。阿部君、まず跳び越えてください。うまい、少しぐちやつと苔にはいつたけれども、まあいいねえ、それではぼくはいまこつちで桶をつるすから、そつちでとつてくれ給え。そら、重い、ぼくは起重機の一重だよ。重い、ほう、天びん棒がひとりで、磁石のように君の手へ吸い着いて行った。太陽マジック

なんだほんとうに。うまい。

※……………

※……………

楊やなぎの木でも樺かばの木でも、
 燐りん光こうの樹じゆ液えきがいつぱい脈みやくをうっています。

青空文庫情報

底本：「イーハトーボ農学校の春」角川文庫、角川書店

1996（平成8）年3月25日初版発行

底本の親本：「新校本 宮澤賢治全集」筑摩書房

1995（平成7）年5月

入力：ゆうき

校正：noriko saito

2009年8月22日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

イーハトーボ農学校の春

宮沢賢治

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>